

第89回全国書画展覧会 審査長 紹介

書写の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

杉本直美先生



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

豊口和士先生

画の部



文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官

小林恭代先生

全国書画展覧会（書写の部） 令和3年度の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 杉本直美

全国書画展覧会も第89回を迎えました。本稿執筆時点では、新型コロナウイルス感染者数が減少傾向を見せておりますが、まだまだ予断を許さない状況の中、本会においては、昨年度より応募数が増え、日ごろからの練習の成果が感じられる力作が全国各地から多数集まりました。特に、中学校から例年以上に多くの作品が寄せられたと聞き、中学校の書写指導が一層充実してきていることを感じます。審査には大変苦勞しましたが、学校での書写の授業を踏まえて正しく整えて書かれているものを選ぶように努めました。特に、入賞した作品はいずれも素晴らしく、審査会場でも感嘆の声が聞かれました。これらの入賞作品に共通しているよい点としては、用紙全体との関係に注意しながら文字の大きさ・配列などを考えている、点画の種類を理解して適切に書いている、点画のつながりを意識して書いている、行書の特徴を理解して書いている、名前の書き方・用紙の扱い方も含め丁寧に書く気持ちが伝わってくるなどが挙げられます。本冊子に作品が多数掲載されていますので、全国の小・中学校における書写の学習の際に、参考にしてほしいと思います。

さて、学習指導要領の解説においては、小学校にも中学校にも「文字文化」という言葉が出てきます。中学校においては、第3学年の〔知識及び技能〕(3)の指導事項エ(ア)に「身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。」とあります。文字文化とは、例えば、私たちの身の回りにある様々な文字というものを、長く受け継がれてきた「文化」としてとらえようということです。皆さんの身の回りには、どんな文字がありますか。手書きの文字はもちろんのこと、本や新聞などの活字、パソコンやワープロで打ち出された文字もあるでしょう。その中には、漢字・平仮名・片仮名・アルファベット・数字といった種類があります。また、皆さんが学習している楷書や行書といった類別もできるでしょう。私たちは、日々、多くの文字を読んだり書いたりしていますが、それらの文字はいろいろな意図で使い分けられているのです。そのようなことを考え、実際に様々な文字を味わったり、自分で工夫して文字を使ってみたりしてほしいと思います。

書写を指導する上では、文字を書くことの大切さや素晴らしさを児童生徒が実感できるようにすることが大切です。文字は人と人とのコミュニケーションに欠くことのできないものであるとともに、自分の思いを表す表現手段の一つでもあります。特に毛筆書写は、文字を書くことの意義を体感する上で引き続き重要なものです。今後も、本展覧会への出品などを一つの目標にして、学校などで学習した成果を存分に発揮し、楽しみながら文字を書くことを大切にしてほしいと思います。

終わりに、本会が日本の書画に関する教育の発展に多大な貢献を続けられていますことに、深い敬意を表します。そして、参加した児童生徒の皆さん、指導に当たられた全国の先生方、優しく見守ってくださったご家族、大会運営にご尽力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。次年度も、多くの方の参加を期待しております。

第89回全国書画展覧会「書写の部」の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 豊口和士

まずは、第89回全国書画展覧会「書写の部」に出品されたすべての児童・生徒の皆さんの出品に向けてのご努力を讃えたいと思います。そして、見事受賞された皆さん、本当におめでとうございます。ご指導に当たられた先生方、ご支援くださったご家族の皆様におかれましてもお喜びのことと存じます。心よりお祝い申し上げます。

審査を通しまして、どの出品作品からも日頃の学習の成果が確かに見て取れ、出品された全国の児童・生徒の皆さんが熱心に学習し作品制作に取り組まれて様子や思いが例年にも増して伝わってきました。昨年度から続くコロナ禍にあって、思うように学習・制作に取り組めない状況も想像していましたが、例年と比べてもさらに素晴らしい作品が集まりましたことを嬉しく思います。

皆さんは文字を書くことが楽しいですか。毛筆や墨による特別な表現で自身の思いを表し、伝えることは楽しいですか。きっと皆さんそうなんでしょうね。そんな思いや気持ち作品から溢れています。上手に書きたい、賞を獲りたいといった思いもあるでしょうが、まずは書写に取り組むことを通して自身と向き合うことが大切です。そして、自身を表現することの楽しみや喜びを味わいながら、自身の成長を実感してほしいと願っています。学校教育としての書写は、書道、書の美の世界へと広がっていき、皆さんも生涯にわたって文字文化を担っていくこととなります。関わり方はそれぞれでしょうが、これからも毛筆や墨で書かれた文字が持つ独特の美しさや豊かさ、伝統と文化を大切にしていってください。きっと人生が豊かになると思います。

本年度の内閣総理大臣賞「仲間」、文部科学大臣賞「月」、「詩集」は、学校教育における書写の学習の成果が遺憾なく発揮されているとともに、揺るぎない点画構成による文字の構築性と、それを支える運筆の正確さと流麗さが特に優れていました。毛筆による表現では特に運筆が重要であり、学習を通して身に付けた運筆能力が硬筆における書字にも生かされることが学校教育では目指されています。小学校学習指導要領の書写の学習事項には、第1学年・第2学年で「適切に運筆する能力の向上」、第3学年・第4学年で「筆圧」、第5学年・第6学年で「穂先の動きと点画のつながり」が示されており、毛筆と硬筆に共通に関わる学習事項です。特に小学校・中学校での「平仮名」、中学校での「行書」の学習では運筆への意識が重要となります。

小学生の皆さんは、毛筆による書写の学習だけでなく、硬筆を使った普段の生活の中でも文字を正しく整えて、丁寧に書くことを心がけてください。中学生の皆さんは、目的意識・相手意識を持って、豊かに伝えるために効果的に書くことを心がけ、書写の学習以外でも身の回りの多様な表現や文字文化の豊かさにも目を向けてみてください。

最後に、全国書画展覧会の運営にご尽力いただきました皆様に敬意を表するとともに、本展覧会が日本の伝統と文化の継承と理解の推進に益々寄与され、子供たちの確かな成長と我が国の「文字文化」ならびに「芸術文化」の進展にさらに大きな役割を担うべく、一層発展されることを祈念いたしまして審査講評といたします。

全国書画展覧会（絵画の部）の審査を終えて

文部科学省初等中等教育局教育課程課
教科調査官 小林恭代

今年度も、昨年度より続く感染症拡大により様々な活動の自粛がありました。一日も早い収束を願い、皆が安全で安心な生活ができるよう努力を続けています。

そのような中、今年も全国書画展覧会に多くの児童・生徒の皆さんから作品が寄せられました。大変な中であっても、力強く、自分の表したい思いや願いを大切にしたい数々の作品を拝見し、とてもうれしい気持ちになりました。児童・生徒の皆さんの努力と、先生方のご指導、ご家族の励まし、大会運営に携わった皆様のご尽力に、心より感謝申し上げます。

図画工作でも、美術でも、絵に表す時に大切なことは、「創造的に発想や構想をしたり、表したりする」ことです。それは、自分にとって新しいものやことをつくりだすように、表したいことを見付けたり、どのように表すか考えたりすることです。

中学校美術では、自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想することを重視し、そのことを「主題を生み出す」という言葉で示しています。そして、「自分は何を表したいのか、どういう思いで表現しようとしているのか」などの思いを大切に、表現の意図に応じて様々な技能を応用したり、工夫を繰り返して自分の表現方法を見付け出したりすることが大切だとしています。

表したいことを見付けることは、とても大切な力です。皆さんは、思い出に残ったこと、感動したことや、どうしても伝えたいことなどから表したいことを見つけたのだと思います。「これを表したい」という思いがあれば、表したいことをどうにかして表そうと、様々な表し方の工夫が生まれます。それが、その絵の魅力となり、見る人にも伝わっていくのです。

このような観点から、3つの作品を紹介したいと思います。

（1） 内閣総理大臣賞

この絵に出合った時、画面全体に流れるやさしさに強く惹かれました。夕日が差し込む美術室で、一人の生徒が本を読む姿が描かれています。一日の活動を終え、ほっとしているような心情、穏やかな時間が流れている雰囲気が伝わってきます。松原さんにとってこの美術室は、3年間の中学校生活の中で、様々な思い出を刻んだ特別な場所なのでしょう。流しや机、扇風機、人物などに写り込む夕日の色合いも美しく、美術室にあるものの細部にまで心を配って表していることが分かります。これからも、自分の感性を大切に、表現することの喜びを味わいながら描き続けてほしいと思います。

(2) 文部科学大臣賞 小学生の部

「こんなに大きくてぶあつい毛虫を見たのは、はじめて」という気持ちそのままに、伝えたいことを画面いっぱいに表示しています。絵の中の末吉さんは、ぐっと地面に向かって首を曲げ、手を握りしめ、毛虫だけをじっと見つめています。きっと、毛虫に出会った時の驚いた気持ちや、不思議だなと感じたことを思い出しながらかいたのではないのでしょうか。毛虫や、背景の下の方が黄色で目立つようになっているのも、その時の気持ちとつながっているように感じます。表したいと思ったことを、自分の考えた方法で工夫して表したのだなと思いました。表したいことがまっすぐ伝わってくる作品で、私も一緒に毛虫を発見したような気持ちになりました。

(3) 文部科学大臣賞 中学生の部

明るく、鮮やかな色遣いに目を奪われました。楽しく絵をかいている人物の表情がよく捉えられていて、心のままに描くことに没頭していることが伝わってきます。でも、背景を見るとさまざまな形や色の時計が描かれており、時間に追われつつも、今だけは好きなことをしたいという心情も伝えていきます。自ら表したいことを心の中に思い描き、主題を生み出し、どうしたら意図が表せるのかをよく考えて表した作品だと感じました。作者の小杉さんは、これからも愛のこもった作品をつくりたいそうです。とても素敵なことです。ぜひ、これからも描くことを楽しんでほしいと思います。

今回の審査を通して、児童・生徒の皆さんの感性の豊かさを感じるとともに、絵に表すことで様々な思いを伝えてくれたことを大変うれしく感じました。

自分の表したいことを見付け、表し方を工夫して表すということは、絵のみに限らず、生きていく上でこれからも大切になっていく力です。これからも夢や願いをもち、心豊かに豊かな生活を自ら創りだすことを大切に、表現することを楽しんでいってほしいと願っています。引き続き、先生方には子供の思いを受け止め、つくりだす喜びを大切にされたご指導をお願いいたします。また、家庭、地域の皆様には、引き続き学校教育活動に一層のご理解をいただき、連携を深めていただけたらと思います。

最後に、「全国書画展覧会」の一層のご発展を祈念いたしまして、審査講評といたします。